

森脇成典 (メモ)

黒田和明 (監修)

日時：2009年3月9日13:30-14:30

場所：東大宇宙線研究所大セミナー室+TV会議 (天文台、京都大、KEK、東大工) +Skype

参加：(敬称略) 中谷, 黒田, 大橋, 三代木, 我妻, 齋藤, 上田, 山本, 高橋, 森脇, 大前 (宇宙線研会議室)、三尾 (東大工学部会議室)、川村、辰巳、新井、佐藤修一 (天文台会議室)、鈴木 (KEK 会議室)、中村、安東 (京大研究室)

o 申請の近況 (黒田)

文科省で以前から予告されていた大型プロジェクトのための予算審議の枠組が実現に向けて始動した (平成 23 年度開始のプロジェクトについて) .

一方、東大から文科省の第 3 次補正予算の候補として提案された 4 つの候補の一つが LCGT.

o 真空 (高橋)

(gwproject at NAO の Wiki に資料参照: 真空系 9. ppt)

フランジ付き 12m ダクトとベローズだけで構成する場合の見積をした

- フランジ及びフランジ溶接, 検査: 297M 円
- ベローズ増加 (156=>450): 1,522M 円
- ヘリコフレックス (500): 92M 円

-----

計 1,911M 円

ベローズの機械強度を上げるための変更が入り, 単価が上がっている. 現地作業が減る分, その費用が安くなる可能性あり. 防振を含めた工程案を作った (資料参照). フランジの変更により, 3ヶ月短縮できて 4年以内に収まりそう.

o 干渉計 (安東)

TAMA のスケジュールを見返すと, リサイクリングを含め 9年かかった. これを LCGT では 1年余りに圧縮することが要求されており, 相当厳しい. 1年 (または 9ヶ月) で設置のみを行い, 2年目でシェイクダウン・ノイズハンティングを行う. 常温から低温への移行が鍵となるので考えておく必要あり. セットアップ・搬入のための坑外の現地施設が必要. 例えば, レーザーの性能確認の測定ができる, クリーンブースのついた実験スペースを坑外の建物に.

o 冷凍機 (鈴木)

今までと同じく、クライオメック社の冷凍機を第一候補で検討。鏡から遠い冷凍機付近の構造物については技術的見通しができているが、鏡に近い部分についてはなお検討が必要。

○ TAMA-CLIO の今後について（三代木）

（メール添付 PDF 参照）

3ヶ月 study の概要説明。RSE と低温対応 SAS が大きな柱となる。

[中谷コメント：NAOJ や KEK の幹部に説明する場を持ちたい、今後相談]

[新井コメント：各検討項目がしかるべきグループに渡って検討される仕組みがあるべき]

○ 工期短縮について（辰巳）

坑外で組んで坑内に入れるものをもっと増やして工期を短縮する案はあった。さらに、センターエリアでの搬入物の調整作業と腕エリアでの真空系搬入作業をオーバーラップさせることを提案したい。

[中谷コメント：腕への搬入がある期間は大型機械がセンターエリアを通るのでフルにものが置けない、という指摘がかつてあったので考慮を要すが、ぜひ検討して欲しい。]

○ 基線長について（黒田）

3km と 2.7km の両案で見積もろうとしていたが、片方に絞った方がよいという意見があった。これに影響するかもしれない現地地質の調査を進めたい。

[大橋コメント：学術審議会が急速に進み始めたので、3km, 150億円, 5年+2年という案に肉付けしたい。2.7km でのオプション見積を作る余裕がないのではと危惧している]

○ 新しい組織図のもとで動き出す時期について

[黒田コメント：次回までに作業班責任者レベルの方針を固めたい]

○ 次回 4月6日 13:30 より